

男女共同参画
から見た

あなたの見ている情報、それっておかしくない?!

メディアリテラシー

諸橋 泰樹

(フェリス女学院大学教授)

メディアリテラシーとは?

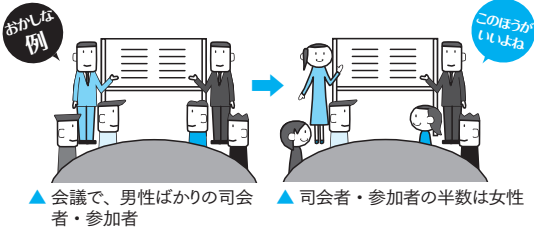
21世紀に入り、これまでのマスメディアに加えてネットワークメディアも私たちの日常生活に大きなウェイトを占めるようになっていきます。空気のよ
うな公共財となっているメディアです
が、その情報内容、表現内容、利用方
法など、果たして「安全」で、私たちは
それを使いこなしているでしょうか。

国の施策を定めた男女共同参画社
会推進のための基本計画には、「メディ
アにおける男女共同参画の推進」の項
目があり、女性の人権を尊重したメ
ディア表現を推進する施策、人びとの
コミュニケーションの活性化を促す施
策等が盛り込まれています。中でも、
メディアから流れる様々な情報を主体
的に収集・判断する能力、また適切に
発信する能力の獲得と向上がうたわれ
ており、「こつこつとした能力を「メディアリ
テラシー」と呼んでいます。

ふだんから目にしているこんな表現
これっておかしくない?!

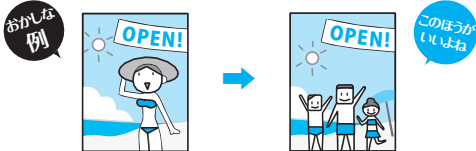
男女共同参画の観点からとらえた
メディアリテラシーの実践的課題とし
て、(a)女性や男性のみならず多様な人
たちの存在や人権がないがしろにされ

例1 会議のイラスト なぜ男性ばかりなの?

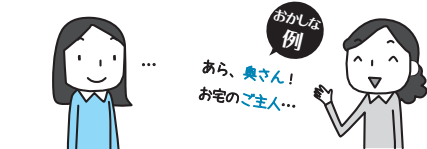


▲会議で、男性ばかりの司会者・参加者 ▲司会者・参加者の半数は女性

例2 海開きのポスターなのに、女性のビキニ姿で目を引こうとしている?



例3 なにげなく使っている言葉、どこがおかしくないですか?



▲「奥さん」「ご主人」という言葉は①固定化表現と②男性中心表現ですね。他にどのような呼び方があるか考えてみるとともに、周囲の人たちと①②にならないような新しい表現(名前や呼ぶなど)を使ってみてはいかがでしょうか。

【プロフィール】諸橋 泰樹 (もろはしたいき) / フェリス女学院大学教授
1956年生まれ。マス・コミュニケーション論、社会学、女性学を専攻。地方自治体の男女平等関連の委員・委員長などを多数歴任。日本ペンクラブ言論表現委員会委員、同女性作家委員会委員、日本出版学会副会長などを務めている。
主な著書:『ジェンダーとジャーナリズムのはざまで』(批評社、2007)、『メディアリテラシーとジェンダー』(現代書館、2009)ほか

ていないか、表現をクリティカル(分析的・批判的に読み解く)、(b)マスメディアやネットワークメディアのつくられ方を知り、社会的広がりや影響力について考える、(c)自分自身がそういった表現に注意深くなり、多様な人たちの意識した表現を心がけるといった能力が挙げられると思います。
そのためには、次の2つの観点から読み解き、考え、表現するといひしよう。

①女性をはじめ様々な人たちの、あり方や役割を固定化した言語表現、ビジュアル表現になっていないか
②男性を中心にした言語表現、ビジュアル表現になっていないか(量的には)

どうか、質的にはどうか
すべての人にとって心地よい表現を「ダイバーシティ(多様性)」がキーワードになってきています。これからの日本は、あらゆる職場で働く女性、介護や育児をする男性、障がいのある人、子ども、高齢者、多様な性を持った人たち、多様なカップル、単身者、在日外国人、労働や観光に来る外国人など、様々な人びとの共生社会となります。国内のみならず世界に向けて「誰もが暮らしやすい」と思ってもらうためにも、多様な人びとの存在や人権に配慮したメディア表現と自らの表現を心がけたいものです